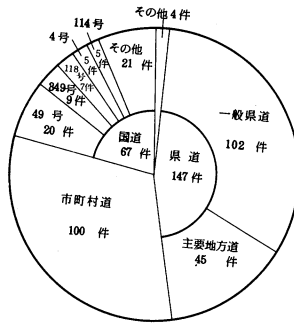


(表17) 道路別事故発生件数

道路別	区分	件数		各道路別全事故に占める割合	死者	傷者
		発生	構成率			
国	4号	5	1.6	0.7		6
	6号	3	0.9	0.4	1	2
	49号	20	6.3	3.1		33
	114号	5	1.6	5.7	1	11
	115号	2	0.6	1.2		5
	118号	7	2.2	3.9		7
	121号	4	1.3	1.8		4
	288号	4	1.3	3.3		5
	289号	4	1.3	4.5		6
	294号	4	1.3	6.9		4
道	小計	67	21.1	2.0	2	95
	主要地方道	45	14.2	4.1	1	63
	一般県道	102	32.1	5.9	5	136
市町村道	小計	147	46.2	5.2	6	199
	市町村道	100	31.4	3.9	2	115
	高速道路	2	0.6	1.9		2
その他	2	0.6	3.3		2	
合計		318	100.0	3.6	10	413

(図13) 道路別発生状況 (第1原因者)



道路別発生状況を第一原因者についてみると、発生件数については国道では四十九号線が多発しており、県道、市町村道でも合計二百四十七件となっているが、各道路の通行量から各道路別全事故に占める割合について注目する必要がある。国道では三桁国道(一四号、一一八号、二八九号、二九四

(表18) 時間別被害状況

時間区分	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~0
死者				2	1	2	3	2	2	1		
傷者	10	5	4	65	112	51	77	106	148	110	30	21

(表19) 曜日別被害状況

曜日別区分	日	月	火	水	木	金	土	計
死者	1	2	1	1	2	3	3	13
傷者	130	103	90	95	96	95	130	739

生の時間帯と同じく、登、下校時における件数及び日中の発生件数については同様のことがいえるが、午後八時以降から午前六時までの発生件数が七十件を数え、深夜の二輪車の運転での事故報告をみると、家庭での管理の甘さ

(表20) 当事者別通行目的別被害状況

○数は死者で外数

当事者別	通行目的別											合計		
	乗用バス	乗用普通	貨物トラック	軽四輪	大型	普通	ライトバン	軽四輪	自動二輪	軽二輪	原付二種		原付一種	農耕作業用車
運転走行中		12	1	1	1	①3	③72	①37	②93	③161	1	②147	37	②566
同乗中		14		5	2	5	3	8	2	5	1			45
計		26	1	6	3	①8	③80	①39	②98	③162	1	②147	37	②611

(昭和50年の「交通白書」による。)

次に当事者別通行目的別被害状況によると、やはり二輪車による死傷者が多く、原付一種、二種、自動二輪、軽二輪の順になっており、死者だけでは原付一種に対して五十cc以上の二輪車で二倍の六名になっている。いわゆる

(表21) 昭和51年1月~8月末までの交通事故発生状況

○死者

学校別	1	2	3	4	5	6	7	8	計	50年同月までの計
小学校	0	1	0	1	0	2	0	2	6	3
中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
高等学校	2	0	0	4	1	1	1	0	9	10

○傷者

学校別	1	2	3	4	5	6	7	8	計	50年同月までの計
小学校	29	31	45	65	54	61	64	89	433	440
中学校	11	5	19	14	12	21	18	25	125	153
高等学校	31	45	66	64	52	58	63	72	451	433

昭和五十一年八月末現在の交通事故を昨年同期と比べ表にまとめたので、今後の指導に参考資料として活用してほしい。(資料は、福島県警交通部交通企画課の提供による。)

3、昭和五十一年八月末までの交通事故について

大型二輪車による事故の危険性を痛感させられる。そのほか意外に被害の多いものに普通車がある。この原因には無免許運転、運転未熟が大部分を占めている。